

速報：モニタリングサイト1000陸水域調査（湖沼）水生植物調査

伊豆沼・内沼サイト

— 宮城県登米市・栗原市 —

伊豆沼・内沼は、宮城県北部に位置する淡水の堰止湖で、典型的な富栄養湖です。伊豆沼は、湖面積3.69km²、最大水深1.6m、平均水深0.8m、内沼は、湖面積1.22km²、最大水深1.6m、平均水深0.8mの湖です。

かつては多様な水生植物が豊富に生育する湖沼でしたが、近年、水質汚濁などの影響により、水生植物が激減しており、その保全に関する研究や活動が行われています。



調査地の景観
ハスの群落が湖面を広く覆っていました。



採集器を使ってボート上から水生植物を採集している様子。

2020年度の調査結果概要

伊豆沼・内沼サイトでは、2015年以来、2回目の調査になります。湖沼にどのような水生植物が生育しているかを把握するために、9月16日と17日にボートを利用した方法と湖辺を歩く方法で伊豆沼の全域を調べました。

2015年の初回調査時と同様に、湖面の広い範囲がハスで覆われている様子が見られ、複数の場所でおビシやガガブタの群落も確認されました。その一方で、総合対策外来種のアオオアカウキクサも引き続き確認されました。しかし、前回調査では湖内で記録されていたいくつかの沈水植物（クロモやホソバミズヒキモなど）が同地点で確認できませんでした。

今回の調査では、計29種の水生植物が確認され、この中には環境省レッドリスト掲載種のサンショウモ（絶滅危惧II類）、ミズアオイ・イヌタヌキモ・アサザ・ガガブタ（準絶滅危惧）も含まれていました。特にミズアオイは本調査では初めての記録であり、昨年度より宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団により実施されている湖岸植生の保全・復元活動（エコトーン造成事業）の成果と考えられます。

【調査者・調査協力者】

藤本泰文・速水裕樹（宮城県伊豆沼・内沼環境保全財団）、山ノ内崇志（福島大学）、加藤 将（新潟大学）、山岸洋貴（弘前大学）、金子誠也（日本国際湿地保全連合）



オビシ
伊豆沼の複数の場所で群落が確認されました。



ガガブタ（準絶滅危惧種）
円心形の葉をもち、花卉には白毛が生えています。



ミズアオイ（準絶滅危惧種）
7月～10月に美しい青紫色の花が咲きます。



伊豆沼・内沼産の水生植物はサンクチュアリセンター前の水槽で見ることができます。